

データライブラリアンに求められる能力 ー北米の求人情報の分析ー

浅川 瑞貴

近年、研究の効率化や透明性の確保を目的として、学术论文のみならず、研究データの公開・共有をも推進する動きが広がっている。各国の政府や研究助成機関も研究データの公開を義務づける方向に進んでいる。日本においても、科学技術振興機構が2017年に研究データ管理計画の提出を求めることを含めた「オープンサイエンスに関するJSTの基本方針」を公表しているが、研究データ管理の推進や基盤整備は十分ではない。そうした中、今後の研究データ管理を考える上で参考となりうるのが、欧米の大学図書館や研究図書館において研究データ管理に携わる職員の「データライブラリアン」の存在である。しかし、資格としてデータライブラリアンというものがあるわけではなく、どのような知識、能力を獲得すればデータライブラリアンになれるのかは、明確に定まっていない。

そこで本研究では、データライブラリアンの職務や役割を整理するとともに、求人情報の分析から、実際のデータライブラリアンに求められている能力を明らかにすることを目的とした。文献調査から、データライブラリアンを「研究データ管理に関するサービスに携わる図書館員」と定義し、職務を「データ管理計画」とデータの「生成」「加工」「分析」「保存」「公開」「再利用」、そしてデータ管理の「ガイダンス・研修・支援」に分類した。また必要とされる知識・能力は、「図書館員としての能力」「研究分野・環境への理解」「標準規格・知的財産権やライセンス」「データ管理ツール」「その他のデータ管理に関する知識・能力」「研究データ管理の推進・支援」の6つを取り上げた。

次に、2018年6月1日から2018年10月31日にAmerican Library Association、Association of Research Libraries、Special Library Associationの3機関のWebサイトに掲載された求人情報を収集し、「職名」、「募集機関」、「職務内容」、「募集要件」の項目について分析した。調査の結果、まず、データライブラリアンを表す職名や募集機関は多様であり、これまでデータ管理に関するサービスを必要としてこなかった機関でも、データライブラリアンが求められるようになっていることが示された。また、職務内容や募集要件からは、データに関する専門知識・能力よりも図書館員としての知識・能力が求められていること、図書館員がデータ管理をするのではなく研究者が自身でデータ管理をすることの推進・支援が重視されていることが明らかになった。しかし、データに関する専門知識・能力が不要とされているわけではなく、データに関するツールやソフトウェア名を具体的にあげ、その素養を求めるところもあった。ただし現段階では採用時に専門知識・能力をもつ図書館員が少ないために、これらが必須要件になっていない可能性もある。今後、データ管理のための基盤整備、人材育成を進めていくことが必要である。

(指導教員 溝上智恵子)